

初めてのレポート作成 ～レポートって何？～



令和2年8月
東京学芸大学附属図書館
学習サポータ

こんな勘違いをしていませんか？

- レポートは感想文と同じだ！
- レポートって、国語の教科書に載っていたような評論文みたいなものでしょ？
- レポートは文豪のような味わいのある文章で書かなきゃいけない！
- いざとなったらウェブ上のテキストをコピーしてごまかしちゃおう！

etc...



“レポートではありません！”

レポートとは？

「問 - 答」
形式

- ①「**問い**」が立てられている
- ②「**問い**」に対して「**答え**」が示されている
- ③客観的な事実（資料・データ）に基づき**論証**されている
- ④一定の構成形式（＝型）に従って書かれている
 - * 「**序論**」⇒「**本論**」⇒「**結論**」（＋「参考文献」）
 - * 章立てをしてある
- ⑤表現は明確に、分かりやすく、シンプルになっている

★授業内容に関連付けて書かれている！

レポートの種類

- 調査報告型

⇒ 調査・実験などをして客観的に整理・分析

- ブックレポート（書評）型

⇒ 指定された文献を学術的に読み、批判的に検討

- 課題レポート型

⇒ 「～について論ぜよ」「～について考えをまとめなさい」

どうやってレポートを作成していくのか？

レポート作成の手順

- ①レポート課題（テーマ）の理解
- ②レポート課題（テーマ）から「問い」を設定する
- ③仮説を立てる
- ④仮説の検証・実証
- ⑤アウトラインの作成
- ⑥執筆
- ⑦仕上げ

レポート課題（テーマ）について①

- 与えられたレポート課題（テーマ）は漠然としたものが多い！



- レポート課題（テーマ）をそのままレポートのタイトルにしても書きにくい（何を書けば良いのか分からない）！

レポート課題（テーマ）を直接タイトルにして書き出さない！

レポート課題（テーマ）について②

- 与えられたレポート課題（テーマ）から、自分で論ずべき「問い」を設定する必要がある
(※論ずべきテーマをさらに小さく絞り込んでいく必要がある)

⇒どんな観点があるか
⇒どんな切口があるか
⇒自分の関心ごとから

授業内容と
関連付けて
考えてみる

レポートでは自分で「問い」を設定することが求められている！

「問い」を設定するには・・・

- レポート課題（テーマ）を十分に理解していないと、自分なりの「問い」は設定できない！



- レポート課題（テーマ）の理解をする必要がある
⇒ レポート課題（テーマ）には、どんな問題が潜んでいるのか？

レポート課題（テーマ）の理解の仕方

- ➡ 百科事典、主題別事典
- ➡ 年鑑
- ➡ 新書
- ➡ 入門書
- ➡ 概説書

事典の活用

➡ まずは事典を使う！

◎ 定説 ・ 通説が書かれている。

- ⇒ 基本的な知識
- ⇒ 代表的な基本文献
- ⇒ 文献検索に必要な適切な検索語
(※日本語だけでなく英語の検索語が分かることも)

◎ 必ず索引から探す。

- ⇒ 調べたいコトバが見出しに挙がっているとは限らない
- ⇒ 他の事柄との関連性が見えてくる

索引から「問い」のきっかけが見つかることも！

新書の探し方～どんな新書があるか～

「新書マップ」を
活用してみよう！

更新：月2回

風

知ることの価値と楽しさを求める人のために

文章や言葉を入力して、新書をテーマで探そう！

（例えば…）中国共産党の実態を知り今後の米中関係を探る

検索する

クリア

テーマで探す新書ガイド
新書マップ

[KAZE]
Index

記事

- » 「新」テーマ・読書ガイド
- » 新書に訊け！
- » ランキング
- » 新刊月並み寸評
- » 新書で考える「いま」

IMAGINE Book Search

（例えば…）籠屋 飯盛旅館、本陣など旅館の原型となった江戸時代の宿を知る

IMAGINE

アーカイブ

- » Interview
- » Series
- » Report
- » Special
- » Entertainment

2020年6月刊行から | 新刊月並み寸評

NEW 2020/07/15

新型コロナウイルスに関連する新書が増えてきた。感染拡大防止対策を国に提言してきた押谷氏をはじめ、各分野の専門家の視点を提供する『ウイルスVS人類』。ウイルスによって大きく変わる私たちの生活、経済についてとりあげた『コロナが加速する格差消費』。その他今月は、世界で増える移民・外国人排斥の動きを取材した『ルボ 外国人ざらい』（宮下洋一著）、日本の「外国人労働者受け入れ政策」の歴史を振り返り、今後の日本社会のあり方を模索する『国家と移民』（鳥井一平著）など、「国家」のあり方について考えさせられるものも目を引いた。

» 読む

新書に訊け！

NEW 2020/07/15

ニュースを新書マップ「テーマ」で読み解く

News01 » 7月の豪雨 「特定非常災害」に指定

News02 » 東京の感染者増加 菅氏に小池氏反発

News03 » 新型コロナ 抗体に感染防ぎ能力確認

News04 » 南シナ海 中国の主張を米が公式否定

News05 » リニア JR東海「27年開業難しい」

News06 » マンションに隕石 科博が確認

新刊月並み寸評

NEW 2020/07/15

ランキング

NEW 2020/07/15

ジュンク堂書店 天満橋店（大阪府大阪市）

- 1 » 現代語訳 論語と算盤
- 2 » 還暦からの底力／歴史・人・旅に学ぶ生き方
- 3 » ケーキの切れない非行少年たち
- 4 » 知らない恥をかく世界の大問題11／グローバル化のその先
- 5 » 橋本文書／日本最大級の偽文書
- 6 » あぶない法哲学／常識に盾突く思考のレヴュー

「時代の鏡」新刊新書の傾向と特徴

「問い」というのは？

- ➡ レポートで述べる内容を決めるもの
- ➡ 「問い」がなければレポートは書けない

「～は良いか悪いか？」

「～はどのようなになっているか？」

「～と～はどこがどのように違うのか？」

「どうしてか？」

★「問い」は疑問形（「～か？」）で示す

仮説の構築

- ➡ 「問い」を設定したら、すぐに調査はしない
- ➡ 調査を進める前に**仮説**（結論の予想）を立てる！

★結論を予想せず調査をすすめると、
ただ調べただけで終わってしまう

調査の進め方

- ①仮説を立てる
- ②仮説が正しいかどうかを検証する
- ③仮説を軌道修正する

調査の種々

- 文献調査

⇒時事的情報、法令情報、統計情報、原文

- アンケート調査

- インタビュー調査

- 観察

- 実験

調べ方を調べる

- どういう調べ方をすればいいのか、が分からない場合
 - ・ 「レファレンス協同データベース」 〈国立国会図書館〉
 - ・ 「リサーチ・ナビ」 〈国立国会図書館〉
 - ・ 「ジャパンナレッジ・プラス」

- ※その他、ガイドブック、ハンドブック、概説書などにも調べ方は載っている

文献調査の例

➡ ◎原資料（日本の古典籍等）

- ・「日本古典籍総合目録」＜国文学研究資料館＞
- ・『日本学術資料総目録』（美術工芸篇／書跡・典籍・古文書篇）＜図書館2F参考図書 703.8/A41＞

➡ ◎統計資料

- ・総合的な統計資料
 - ・『日本統計年鑑』＜図書館 2 F 参考図書P35-91/1＞
 - ・「政府統計の総合窓口」＜統計センター＞
- ・統計がどの資料に掲載されているかを調べる
 - ・『統計情報インデックス』＜図書館2F参考図書351.03/So39＞
 - ・『白書統計索引』＜図書館2F参考図書350.31/NIC＞

➡ ◎法令情報

- ・『官報』（「官報情報検索サービス」）
- ・「法令データ提供システム」＜総務省＞
- ・「D1-Law.com 第一法規法情報総合法令データベース」＜第一法規株式会社＞

アウトラインの作成

■ ◎アウトライン＝レポートの大まかな骨組み

- ・ まずは箇条書きにしてみる
- ・ 「問い」から「答え」に至るまでに、どういう議論をどういう順序で書いていくべきかを考える
 - ⇒ 大きな項目から小さな項目へ
 - ⇒ どうすれば納得してくれるか
 - ⇒ どんな反論があり得るか

※ワードのアウトライン・プロセッサなどを活用してみる！

どうやって執筆していくか

レポートの構成

1. 表紙（タイトル、授業名、執筆者名等）
2. 本文
 - ①序論・・・「問い」の提示
 - ②本論・・・「論証」しながら議論を展開
 - ③結論・・・「（「問い」に対する）答え」の提示
3. 注
4. 参考文献、付録

序論・本論・結論

- ➡ ① **序論（10%）** . . . 「**問い**」の提示
 - ・ どのような問題に取り組むのか、何を明らかにしていくのか
 - ・ どのような方法でその問題に取り組むのか
- ➡ ② **本論（80%）** . . . 「**論証**」しながら議論を展開
 - ・ 「答え」を導くための論拠や根拠を挙げる
（調査結果の提示・分析・考察）
- ➡ ③ **結論（10%）** . . . 「（「問い」に対する）**答え**」の提示
 - ・ 全体のまとめ（新しい意見は出さない！）

★序論は、本論、結論を書き上げてからの方が書きやすい！

文章表現のポイント

- ①文体は「である」調（「です・ます」調、「だ」調は用いない）
- ②一文は短めに（一文には1つのことだけを盛り込む）
⇒"2つの文に分けられないか?"を常に意識する
- ③主語と述語をきちんと呼応させる
- ④修飾関係を明確にする
⇒語順を替える、読点を入れる
- ⑤用語や表記は統一する
⇒用語は意味をきちんと理解して使う
⇒西暦表記にするか、元号表記にするか

レポートで用いられる表現（例）

- ・ 自分のこと⇒「筆者」
- ・ 自分が書いているレポート⇒「本レポート」
- ・ 自分が行った実験⇒「本実験」
- ・ 問いの表現の仕方⇒「～はどうなっているのか」
- ・ 目的の表現の仕方
 - ⇒「本レポートでは・・・を観察し、～について考察を行う」
 - ⇒「本レポートでは・・・と～を調査する」
- ・ 調査方法の表現の仕方
 - ⇒「～を用いて行った」「使用したデータは～である」「調査対象は～である」
- ・ 解釈の表現の仕方⇒「以上のことから～と考えられる」
- ・ まとめの表現の仕方
 - ⇒「本レポートでは、・・・したところ 以下の～点が明らかになった」

注の付け方

■ <注の目的>

- ①**出典**（引用、要約）の表示のため
- ②**補足説明**（本文中で述べると論述の流れを妨げてしまう）のため

■ <注の種類>

- ①**脚注**・・・各ページの下部に記述する
- ②**後注**・・・本文全体もしくは各章の末尾にまとめる

■ <注の付け方>

- ・ 注記号は本文中に番号で書き、脚注もしくは後注でその 番号を頭につけて注を記述する

引用の条件

- 本来は、著作者の許可なく勝手に引用することはできない
⇒ただし、一定の条件を満たす場合であれば、引用できる

- ①公開された著作物であること
- ②引用の必然性があること
- ③自分の文章が「主」で、引用は「従」であること
- ④引用であることが分かるように表現すること
- ⑤原文の通り表記すること
- ⑥出典を明示すること

引用の仕方①

- • 引用文が短い場合 ⇒ 「」（かぎ括弧）で囲む

小林（2010）は、「レポート作成法は社会に出てからも役に立つものである」と述べている。

- • 引用文が長い場合

⇒ 前後 1 行を空け、引用文全体を 2 文字分程度下げる

レポート作成の有用性については、小林が以下のように述べている。

レポートなど役に立たないと思っている人がいるようだが、それは違う。レポートは学生時代だけに書かなければいけないものではなく、社会人もレポートは書かされる。よって、レポート作成法は社会に出てからも役に立つものである。（注1）

このような意見は大学生にぜひとも聞いてもらいたいものである

引用の仕方②

■ 出典の示し方

⇒本文中に**注番号**を入れる 例) (注1)

⇒本文中に**著者名と出版年**を入れる 例) 小林(2010)、(小林, 2010)

⇒**引用文献・参考文献に出典情報を明記**

■ 引用文を強調したり、引用文に補足説明を加える場合

例) (下線は筆者)、(傍点は筆者)、(括弧内は筆者)、(ママ)

※引用する場合は、正確に一字一句原文の通りに引用する！
(たとえ原文の表記が明らかに違ってもその通りに引用する)

「レポート作成法は社会に出てからも役に立つものである」(下線は筆者)

「レポート作成法は社会に出てからも約(ママ)に立つものである」

参考文献の書き方

- 本文中で言及（引用）した文献 ⇒ **必ず参考文献に示す！**
- 本文中では言及していないが、参考にした文献

＜最低限盛り込むべき事項＞

- ① 図書 ⇒ **編著者名． 書名． 版表示， 出版者， 出版年， ページ**
 - ② 論文 ⇒ **著者名． 論文名． 掲載雑誌名． 巻号， 出版年， ページ**
 - ③ ウェブページ ⇒ **作成者． タイトル． URL， 閲覧年月日**
- 第三者にも参照できるように正確にきちんと記載する！

仕上げについて

- 誤字脱字はないか
- 用語や表記は統一されているか
- 引用の出典は明示されているか（参考文献にモレはないか）
- 諸注意は守られているか（字数、用紙のサイズ等）
- 表紙が付けられているか
 - ⇒ タイトル、授業名、担当教員名、提出日、所属、学年、学籍番号、自分の氏名
- ホチキスで留めてあるか

ブックレポートについて

- ➡ 単なる読書感想文ではダメ！
- ➡ 本の中から関心を持った主張・意見をピックアップして論じる
- ➡ いろいろと疑ってみる（主張だけでなく、根拠も）
 - ⇒「本当か？」「なぜ？」
- ➡ 実際に再調査などして検証してみる
- ➡ 反論するだけでなく、代案も提示してみる
- ➡ 何も反論である必要はない
 - ⇒筆者の主張を部分的に肯定し、不足分を補足してみる

図書館の利用に関するお問合せ窓口

■ 文献の探し方や入手の仕方、データベースや事典の使い方に関する 疑問点や質問などお気軽にご相談ください！

- 附属図書館 1 階サービスカウンター

- 附属図書館 学術情報課 利用者サービス係

(E-mail : libref@u-gakugei.ac.jp 内線 : 5185)

- 学習サポータオンライン相談 ※学内者限定

(<http://library.u-gakugei.ac.jp/notice/20200415.html#title4-3>)

参考文献・URL

- 石井一成.ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方. ナツメ社, 2011, 215p.
- 学芸大学附属図書館データベース一覧 ※一部学内者のみ利用可
(<http://library.u-gakugei.ac.jp/database.html>)
- 新書マップ (<http://shinshomap.info/>)